

江別屯田兵村の開村 140 周年を迎えて

編集：江別屯田兵村遺族会・屯田兵制度研究会 発行：2018 年 2 月 1 日

現在の江別市の地域には、かつて 3 つの屯田兵村が存在しました。江別屯田兵村、野幌屯田兵村、篠津屯田兵村の 3 兵村です。江別屯田兵村は、明治 11 年（1878）8 月 29 日に江別太に入植した 10 戸 56 人の屯田兵とその家族を、最初の村民として開村しました。この年、兵屋の建築工事が遅れたため、屯田兵とその家族は、一時江別川右岸の仮の家屋に集団入居し、準備活動を始めました。（その建物は後の江別資材会社の東側にあったと言います。当時、江別川右岸は空知郡幌向村の土地でした。10 月に完成した兵屋は暖炉があり、ガラス窓を設けたアメリカ式家屋でした。）当初は琴似の第 1 大隊の付属分隊として位置づけられ「江別太屯田兵」と通称されました。

その後、江別屯田兵村には、明治 17 年に 75+3 戸、18 年に 43 戸、19 年に 28+1 戸の追加入植があり、合計 160 戸となりました。やがて屯田兵 1 ケ中隊をもって「1 兵村」と呼ぶ慣習が定着し、「江別屯田兵村」の名も公称となりました。屯田兵は入植と同時に任官し、階級も決まっているので、屯田兵関係者は明治 11 年 8 月 29 日を江別屯田兵村の開村日として取り扱っています。したがって、屯田兵の江別兵村と、行政区域の札幌郡江別村とは、設置時期その他、必ずしも一致していません。

ちなみに開拓使は、明治 11 年 10 月 5 日に「甲第 8 号府県布達」を発令して、「札幌郡に江別村を設置する」ことを全国に通知しました。当時この周辺地域には、札幌郡対雁村や空知郡幌向村（江別川右岸から東、現在の江別太・豊幌地区を含む。）が既に存在していましたから、その隙間の土地である江別川の西岸からムショッケ川の辺りまで、南西部は札幌郡白石村の境までを、江別村の範囲と想定したものと考えられます。（江別川右岸の江別太・豊幌地区は、幌向村から、明治 34 年に江別村へ編入されました。）

篠津屯田兵村は、明治 14 年（1881）に 19 戸が石狩郡篠津太に入植し、明治 18 年に 30+1 戸、19 年に 19 戸が追加入植し、合計 60 戸になりました。初め琴似の第 1 大隊の付属分隊となり、やがて江別屯田兵村と合同して、合計 220 戸をもって第 1 大隊第 3 中隊を構成しました。（明治 14 年に石狩郡篠津村が設置されています。）

野幌屯田兵村は、篠津太が湿地の多い、水害に会いやすい土地であることを知った開拓使が、ここに 1 ケ中隊を配置しようとしていた計画を変更して、新たに野幌地区に設置した兵村です。明治 18 年（1885）に 138 戸、19 年に 87 戸が入植し、合計 225 戸をもって第 1 大隊第 4 中隊となりました。その後、明治 20 年（1887）に編成替えがあり、江別地区に第 3 大隊本部が設置されて、江別と篠津の屯田兵村は第 3 大隊第 1 中隊となり、野幌屯田兵村は第 3 大隊第 2 中隊となりました。

したがって、平成 30 年は、江別屯田兵村が開村した明治 11 年から数えて 140 年目に当たります。札幌郡江別村（野幌地区を含む。）も同様に開村 140 周年を迎えました。